

社会人基礎力は

どこのでも生きていく①

「学士力」の中での位置付けられ方

大学教育では、教育の質を保証するために、大学ごと独自に学生の到達目標を定めることが求められています。中央教育審議会では、それを「学士力」として例示しました(平成20年3月)。「学士力」は、「専門知識・基礎学力」、「社会人基礎力」、人間性・基本的な生活習慣」という領域全体をカバーしているのが特色で、個別の能力や資質の習得や育成には、別々に行われるような部分もあると考えられます。次頁下図にあるように、「社会人基礎力」は、「学士力」の中では、直接的にはコミュニケーション・スキル、論理的思考力、問題解決力、チームワーク、リーダーシップ、統合的な学習経験と創造的思考力などに、集中的に含まれています。

「社会人基礎力」の育成という観点に立てば、これら能力・スキルの育成は、専門知識・基礎学力の育成と必ずしも別々に行われるものではないということになります。また、「社会人基礎力」の向

したがって、「社会人基礎力」の育成として、問題解決場面や集団でのふるまいが求められる場面を設定しつつ、同時に、個人中心の専門知識・基礎学力を高める場面が設定されているということが、「学びの好循環」を生むと考えます。それが実現すれば、自然と「学士力」の向上もなされると考えているわけです。

学生に、知識の未消化を生じさせないために

ここに「社会人基礎力」育成を取り入れるメリットの一つは、学生の能動的学習を一定以上に保つため、大学・教員サイドの教えすぎを抑えるバランス維持装置の役割を果たすということです。大学の授業はどうしても知識重視、一方向的なものになりがちです。大学は学問継承の場でもあり学生はその担い手でもあるからです。とはいえ、「社会人基礎力」の育成に必要なのは知識の活用場面であり、あまりに未消化の知識は使われません。当然、未消化の知識は学生の記憶に留まらず身にも付きません。

「社会人基礎力」は、そのような未消化の知識を生む、効果の低い授業をチェックするのに有効な視点になります。「社会人基礎力」は、育成が想定できる場面作りや教員からの働きかけを促し、学習の質を上げるのです。

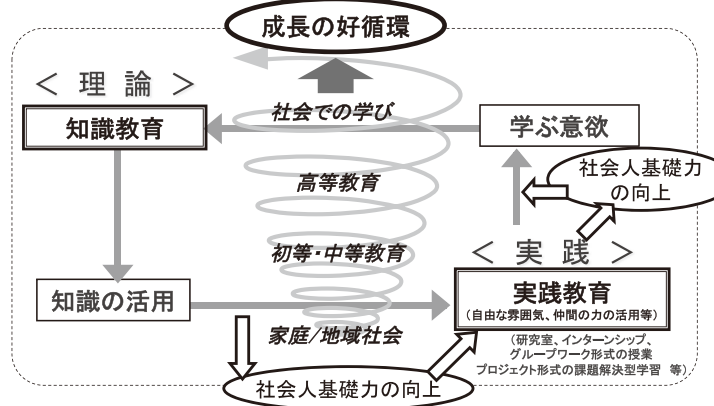
「社会人基礎力」と「学士力(例)」(※)の関係

学士力(例)		「職場や地域社会で必要となる能力」でいうと
知識・理解	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解	多文化・異文化に関する知識の理解 専門知識、基礎学力、人間性・生活習慣など
		人類の文化、社会と自然に関する知識の理解 専門知識、基礎学力、人間性・生活習慣など
汎用的技能	知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能	コミュニケーション・スキル 基礎学力、発信力、傾聴力、柔軟性など
		数量的スキル 基礎学力など
		情報リテラシー 基礎学力など
		論理的思考力 基礎学力、課題発見力、計画力、創造力など
		問題解決力 基礎学力、主体性、実行力、課題発見力、計画力、創造力など
態度・志向性	自己管理能力 主体性、実行力、計画力、ストレスコントロール力、人間性・生活習慣など	
	チームワーク、リーダーシップ 主体性、働きかけ力、実行力、計画力、発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力、人間性・生活習慣など	
	倫理観 基礎学力、主体性、実行力、規律性、ストレスコントロール力、人間性・生活習慣など	
	市民としての社会的責任 基礎学力、主体性、実行力、規律性、ストレスコントロール力、人間性・生活習慣など	
	生涯学習力 基礎学力、主体性、実行力、計画力、人間性・生活習慣など	
統合的な学習経験と創造的思考力	自らが立てた新たな課題を解決する能力 専門知識、基礎学力、主体性、課題発見力、計画力、創造力など	

※文部科学省(中央教育審議会)

社会人基礎力も高める「学びの在り方」

- ▶ 社会人基礎力は、「学びの在り方」の変革も。
- ▶ 理論と実践の融合により、生涯を通じた成長の好循環を目指す。



上が専門知識・基礎学力への習得への意欲につながり、逆に専門知識・基礎学力が一定レベルに達した後、「社会人基礎力」の向上が問題解決力、チームワーク、リーダーシップなどの育成を通して促されれば、当然、専門知識・基礎学力も問題解決プロセスを経験することで再構成され、一段階高まったものになるはず。